ヘブル人への手紙 9:15-28　イエスは究極の、完璧ないけにえ

お手元の聖書のヘブル人への手紙 9:15-28 を開いてください。現代において福音を受け入れる際、最も大きなつまずきになるであろうことの一つが、今日ヘブル人への手紙で見ていくことではないかと思います。この多くの未信者の方が福音を受け入れがたいと思われる理由は、多くの善意あるクリスチャンが、人々に福音を受け入れてほしいがあまりそのメッセージを軽くしてしまう理由でもあります。その理由とは、私たちの罪の代価を支払うためには、いけにえが必要だということです。私たちは皆、神に栄光を帰すことのできない罪人であるという事実だけでなく、私たちの罪が神の前にあまりにも重大であるため、その償いには死が必要だという考えに、多くの人が強い抵抗を覚えます。今朝はその点について見ていきたいと思います。**ヘブル人への手紙 9:15-28 では、私たちが永遠の資産を受け継ぐことができるように、イエスがよりすぐれたいけにえとなられたことが記されています。**

まず、資産を受け継ぐためには死が必要であることが示されているヘブル人への手紙9章15～17節を読みましょう。「キリストは新しい契約の仲介者です。それは、初めの契約のときの違反から贖い出すための死が実現して、召された者たちが、約束された永遠の資産を受け継ぐためです。 16 遺言には、遺言者の死亡証明が必要です。 17 遺言は人が死んだとき初めて有効になるのであって、遺言者が生きている間には、決して効力を持ちません。」これまでの2回の説教で、キリストの御業についてのこの側面について学んできました。それは、私たちがよりすぐれた幕屋に入ることができるよう、キリストが新しい契約を下さったということです。覚えておられると思いますが、イエスは天の幕屋に入り、より優れたいけにえを捧げられました。14節はその個所をこう締めくくっています。「14 まして、キリストが傷のないご自分を、とこしえの御霊によって神にお献げになったその血は、どれだけ私たちの良心をきよめて死んだ行いから離れさせ、生ける神に仕える者にすることでしょうか。」その犠牲は、永遠の命、永遠の資産への道を開く、福音においての新しい契約を成立させるのです。救いが資産の相続をもたらすという、この考えこそが、ヘブル人への手紙の著者が、救いとそれがもたらす資産を得るためには死がなくてはならないと論じる根拠となっています。この手紙の著者は、私たちの救いへの召しを、保証されている遺言書に例えていますが、その遺言による資産は、遺言書を作成した人が亡くなるまでは受け取ることができません。私たちの救いは、神が召してくださった時、あるいは救いへとあらかじめ定めてくださった瞬間から保証されていました。以前にも同じことをお伝えしましたが、このことについては何度でも強調しておきたいと思います。新約聖書で召しという概念について記されている箇所の大半において、使徒の召しを除けば、信仰によってキリストのもとに来るすべての人々に与えられる救いへの召しについて語られています。ローマ人への手紙8:29-30はこの予定と召しの関係を次のように明確に示しています。「神は、あらかじめ知っている人たちを、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたのです。それは、多くの兄弟たちの中で御子が長子となるためです。 30 神は、あらかじめ定めた人たちをさらに召し、召した人たちをさらに義と認め、義と認めた人たちにはさらに栄光をお与えになりました。」

つまり、私たちの召しとは、救いへの予定なのです。ですから、私たちが資産を受け継ぐことも、未来も確実なのです。ですが、その相続も、未来も、永遠の命も、死が訪れない限り実現しません。なぜなら、遺言書と同じく、死が訪れて初めてそれが成立するからです。ですが、これは極めて特別な死です。というのも、アダム以来、エリヤとエノクを除いて、全ての人が例外なく死を迎えているからです。誰のことを話しているのかよく分からないと言う方は、聖書でこの二人について調べてみてください。私たちには、ある極めて特別な死が必要なのです。15節はこのことについて「初めの契約のときの違反から贖い出すための死が実現して」と言っています。新しい契約に入り、その契約に伴う嗣業を受け継ぐことは、ここで違反と呼ばれている罪から贖う力を持つ死にかかっています。そして罪とは、旧約聖書の律法を読むとそこに非常に明確に示されています。これまで何度もお伝えしてきましたが、旧約聖書の律法を見ると、私たちが到底守ることのできない規則、到達できない倫理的な生き方、そして実際には不可能な神の栄光を示

す生活がそこに記されています。ですが、私たちにはその律法が必要です。それは、律法が神が何を罪と定められたのかを示し、私たちが確かに罪人であることを明らかにしてくれるからです。イエスは、私たちがその嗣業を受け取れるようにと死んでくださったのです。

ですが、この箇所の18節から始まる部分では、それがどのような死でなければならなかったのかについて詳しく述べられています。人は様々な死を遂げます。死について考えるのは愉快なことではありませんので、それについてあまり深く掘り下げることはしませんが、心臓発作や脳卒中といった理由で死ぬ場合に血は流れませんが、イエスのように殺害された場合には大量の血が流れることになります。**この説教をもっと明るい調子で終えることをお約束しますが、相続を受けるために血の犠牲が必要であることが記された18-22節を見てください。**「18 ですから、初めの契約も、血を抜きに成立したのではありません。 19 モーセは、律法にしたがってすべての戒めを民全体に語った後、水と緋色の羊の毛とヒソプとともに、子牛と雄やぎの血を取って、契約の書自体にも民全体にも振りかけ、 20 「これは、神があなたがたに対して命じられた契約の血である」と言いました。 21 また彼は、幕屋と、礼拝に用いるすべての用具にも同様に血を振りかけました。 22 律法によれば、ほとんどすべてのものは血によってきよめられます。血を流すことがなければ、罪の赦しはありません。」ここで言及されているのは、モーセが律法の書を受け取り、幕屋が完成した、モーセ契約の始まりのことです。このことについては出エジプト記24章に記されています。この二つの記述にはいくつかの相違点があります。出エジプト記には「水と緋色の羊の毛とヒソプ」や「契約の書」に血をふりかけることについては記されておらず、人々にのみ血が振りかけられることが記されています。著者はおそらく、他の捧げものに基づいて推測したのだと思われます。ですが重要なことは、モーセ契約の始まりにおいて、それが血の生贄によって定められたという点にあります。動物が実際に血を流さなければなりませんでした。絞め殺されたり、自然死したりしたのでもなく、祭司の手によって血を流して死ぬ以外の方法は許されなかったのです。イエスの犠牲とモーセが捧げた捧げものとの関連性は、この箇所で引用されている出エジプト記24:8の言葉に見られます。そこにはこのようにあります。「8 モーセはその血を取って、 民に振りかけ、 そして言った。 「見よ。これは、これらすべてのことばに基づいて、主があなたがたと結ばれる契約の血である。」ここで引用されているのは「これは、神があなたがたに対して命じられた契約の血である」という20節の言葉です。ですが、福音の核心や聖書全体について最も重要なことは、イエスが主の晩餐を制定される際、ご自分の死によって流される血を指し示すために、同じような言葉を用いておられるという真実です。ルカの福音書22:20は「20 食事の後、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による、新しい契約です。」と言っています。イエスのこの言葉は、イエスの死、流される血、そしてそれによってもたらされる新しい契約の御業を指し示していました。

旧約の律法が明確に示し、今日においても私たち一人一人が理解しておかなくてはならないことは、聖なる神の御前において私たちの罪がいかに重大なことであるかという点です。また、律法そのものはその罪に対する解決策を与えることはできませんが、ある一つのことを非常に明確に示しています。それを22節に見ることができます。「22 律法によれば、ほとんどすべてのものは血によってきよめられます。血を流すことがなければ、罪の赦しはありません。」皆さんも、私も、私たち皆が罪人であり、私たちの罪の代価を払うために流された完全な犠牲の血がなければ、赦される希望はありません。ですが、なぜその犠牲がイエスでなければならなかったのでしょう。18-22節では、罪のために血の捧げものが繰り返し捧げられていたことが明らかにされています。なぜ、私たちの罪を贖うためにそれだけで十分ではなかったのでしょうか。なぜ、他のどんな生贄も成し得なかったことを成し遂げるために、イエスがご自分を唯一の血のいけにえとして捧げなくてはならなかったのでしょう。それこそが、23-27節が私たちに示していることです。**嗣業を受けるためには、より優れたいけにえの死が必要なのです。**「23 ですから、天にあるものの写しは、これらのものによってきよめられる必要がありますが、天上にある本体そのものは、それ以上にすぐれたいけにえによって、きよめられる必要があります。 24 キリストは、

本物の模型にすぎない、人の手で造られた聖所に入られたのではなく、天そのものに入られたのです。そして今、私たちのために神の御前に現れてくださいます。 25 それも、年ごとに自分の血でない血を携えて聖所に入る大祭司とは違い、キリストはご自分を何度も献げるようなことはなさいません。 26 もし同じだとしたら、世界の基が据えられたときから、何度も苦難を受けなければならなかったでしょう。しかし今、キリストはただ一度だけ、世々の終わりに、ご自分をいけにえとして罪を取り除くために現れてくださいました。 27 そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、 28 キリストも、多くの人の罪を負うために一度ご自分を献げ、二度目には、罪を負うためではなく、ご自分を待ち望んでいる人々の救いのために現れてくださいます。」罪は肉体的な問題ではなく、神との関係という、罪が最も深く影響を及ぼしている天の領域において対処されなくてはならない霊的な問題であるために、より優れたいけにえが必要だったのです。旧約聖書にあるいけにえは、幕屋にあるものを通して、その聖なる領域を象徴していました。また、それらの美しい器具などでさえ、いけにえの血を振りかけられなければ、神を礼拝するために用いることはできませんでした。では、血のいけにえの覆い無しに、真の天の御国において嗣業を得ることはどのようにして可能になるのでしょうか。聖書に描かれているあらゆる事柄は、罪のゆえに私たちは神に近づくことはできず、罪は血によって覆われなければならないという事実を指し示しています。ですが、物体に振りかけられた動物の血は、実際に天の御国や神への道を開いたわけではなく、より優れた生贄の必要性を示したに過ぎませんでした。キリストであるイエス、メシヤこそが、それらのいけにえによって予表されていた方ですが、その方が動物のいけにえとは3つの重要な点で大きく異なるいけにえとなってくださいました。

イエスの捧げものが、より優れたものである一つ目の点は、その場所です。物理的な幕屋は素晴らしいもので、神の臨在を表していました。ですが、24節にあるように、イエスは「私たちのために神の御前に現れてください」ました。唯一の完全な人であり神であった、完全な大祭司イエスは、神の御前に出て、ご自分の民の罪のために十字架で流されたご自分の血を、直接神に捧げることができました。幕屋も、金も、祭壇も、正しい衣も、聖所と至聖所との間の仕切りも、一切必要ありませんでした。聖なる方ご自身が、ご自分の血という犠牲の証を携えて聖所に入ることができるので、そうしたすべてが必要なかったのです。ですが、イエスの捧げものをより優れたものとしたもう一つの違いがあります。それは捧げものの数です。26節に始まり、著者は、イエスが血の犠牲をただ一度だけ捧げればよかったということを繰り返し強調しています。つまり、私たちが一度死ぬことが定まっているように、キリストは多くの人の罪を負うために一度だけご自分を捧げられました。これらの聖句は、大祭司が毎年贖いの日に聖所に入り、民の罪のためにいけにえを捧げなければならなかったことを示しています。また、祭司たちによって日々捧げものも捧げられていました。ですが、還元で永遠の大祭司であられるイエスは、永続的ないけにえを捧げることができました。それは、大祭司が完全であったからだけではなく、そのいけにえも完全であったからです。人が罪のために受けるべき正当な罰を象徴していたのは、動物の血ではありませんでした。イエスの場合、それは実際の人間の血、つまり罪に対する神の正当な怒りを実際にその身に受けつつ流された、完全な人間の血でありました。それは人類が受けるべき罰の象徴ではなく、まさに人類が受けるべき罰そのもので、罪に対する神の怒りと憤りのすべてが、神の御子イエス・キリストの上に注がれたのです。ガラテヤ人への手紙3:13はこのように言っています。「13 キリストは、ご自分が私たちのためにのろわれた者となることで、私たちを律法ののろいから贖い出してくださいました。「木にかけられた者はみな、のろわれている」と書いてあるからです。」イエスはご自分には罪が無かったにも関わらず、私たちの罪の呪いをご自分の身に引き受けてくださいました。ですから、イエスの血は、いかなる動物の血も成し得なかったことを成し遂げたのです。そしてそのことが、イエスの犠牲と動物の犠牲との間の３つ目の違いである最後の結果へとつながります。その犠牲は死ではなく、命をもっておえられました。28節を見てください。「キリストも、多くの人の罪を負うために一度ご自分を献げ、二度目には、…現れてくださいます。」とあります。死んだ動物は、ただ死んで消え去り、祭壇の上で焼き尽くされるだけでした。通常、死んだ人は再び現れることはありません。ですが、イエス・

キリストについては、「二度目に…現れてくださいます」とあります。なぜ、どのようにして、でしょうか。それは、イエスが死からよみがえられたからです。動物のいえにえは、実際には救いにおいて何も達成することはありませんでした。ですが、イエスの死が神の救いの業を完成したのです。イエスが死んだままでいる必要はなかったのです。御業は成し遂げられ、罪の代価は払われ、人間の罪の結果である死そのものも、キリストの犠牲ゆえに克服されたのです。ですから、イエスは死からよみがえられ、私たちのために道を開いてくださった天の御座へと上られました。では、イエスの死は、その血によって罪を覆っていただいたキリストの弟子である私たちが、もはや死に直面することはないということを意味するのでしょうか。もちろん違います。私たちの実際の経験からすれば、イエスが再臨されない限り、私たちは間違いなく死ぬことになります。イエスご自身も死を経験されましたが、その死は、私たちの肉体の死も最終的にはイエスと同じような復活に至ることを可能にしました。27節には、私たちが死んだあと、さばきを受けるとあります。イエスはさばきを受けられませんでした。裁くべき罪がなかったからです。　その代わりに、28節にあるように、私たちがキリストが罪を負ってくださった多くの者たちの一人であるなら、裁きにおいて、キリストに在って義と認められることが可能になったのです。それは、全ての人の罪ではなく、15節に戻ると、召された者たちの罪のみでありました。ですが、自分の罪を悔い改め、キリストに立ち返り、救いを求めて主を呼び求めるすべての人について、ローマ書10:13は「「主の御名を呼び求める者はみな救われる」のです。」と言っています。そして、救われた者たちのため、キリストの血によってその罪が贖われた者たちのために、イエスはいつの日か戻ってこられます。その時は死ぬためではなく、生涯を通してイエスを待ち望んで来た人々、あるいはイエスの再臨を今まさに待ち望んでいるすべての人々を完全な栄光にあずからせるためです。そしてその時、キリストに在って亡くなったすべての人の復活があり、私たちは永遠にキリストと共に生き、神を賛美することになるのです。私たちの救いには完全な血の犠牲が必要でしたが、その結果、その血を流すために必要だった痛みや犠牲を伴わずに、素晴らしい御国を与えられるのです。ですが、誰もがその未来を体験できるわけではありません。28節にキリストはすべての人ではなく、多くの人の罪を負うと記されていることに注目してください。キリストがその死によって罪に対して与えてくださる贖いは、キリストを信じ、自分の罪を悔い改めた人たちに限定されています。さばきの時が来ます。私たち皆がしに直面しますが、聖書には、その後に裁きがあることを明確に語っています。そして、私たち一人一人が「自分はイエス・キリストと、自分の罪のために代わりにイエスが捧げてくださった犠牲とを信じているだろうか」という問いに答えなくてはなりません。イエスのより優れた、完全な犠牲こそが、罪の赦しと聖所において神に近づくことができる唯一の道なのです。祈りましょう。

Hebrews 9:15-28 Jesus became a better sacrifice

Please open your Bibles this morning to Hebrews 9:15-28. Probably one of the greatest stumbling blocks to the gospel in the modern world is the issue that we want to look at today in Hebrews. The issue that causes many non-Christians to find the message of the gospel distasteful is the same issue that causes many well- meaning Christians to lighten the message of the gospel so that it is better received. That issue is the need for a sacrifice to pay for our sins. If it is not the fact that we all are in fact sinners who have failed to bring glory to God, it is the idea that our sin is so offensive to a holy God that it requires death to pay for it that is offensive to so many. That is what we want to look at this morning. In Hebrews 9:15-28, we see that **Jesus became a better sacrifice so we could receive an eternal inheritance.**

Let's begin by reading verses 15-17 of Hebrews 9 where we first see **the necessity of death to receive an inheritance** 15 Therefore he is the mediator of a new covenant, so that those who are called may receive the promised eternal inheritance, since a death has occurred that redeems them from the transgressions committed under the first covenant.[a] 16 For where a will is involved, the death of the one who made it must be established. 17 For a will takes effect only at death, since it is not in force as long as the one who made it is alive. In the 2 sermons previous to this, we discussed this aspect of Christ's work – establishing a new covenant that would open our way into a better tabernacle. Hopefully you remember that what Jesus did was enter the Heavenly tent to offer a better sacrifice. Verse 14 closed that passage like this, 14 how much more will the blood of Christ, who through the eternal Spirit offered himself without blemish to God, purify our[g] conscience from dead works to serve the living God. That sacrifice mediates a new covenant in the gospel that opens the way to an eternal life, an eternal inheritance. It is this idea that salvation brings an inheritance that is the basis for the argument the writer of Hebrews is making that a death must occur for salvation and for the inheritance it brings. The writer is comparing our calling to salvation to a will that is guaranteed, but you can't receive the proceeds from that will until the death of the person who created it. Our salvation was guaranteed from the moment God called us or predestined us to salvation. I've said it before and I want to reinforce it every time it comes up. The overwhelming majority of times you read about the idea of calling in the New Testament, other than the apostles themselves, it is speaking about the call to salvation given to all those who come to Christ by faith. Romans 8:29-30 shows this connection to predestination and calling clearly when it says, 29 For those whom he foreknew he also predestined to be conformed to the image of his Son, in order that he might be the firstborn among many brothers. 30 And those whom he predestined he also called, and those whom he called he also justified, and those whom he justified he also glorified.

So, our calling is our predestination to salvation. So our inheritance is certain, our future is certain. But that inheritance, that future, that eternal life cannot come about without a death occurring because just like a will, it cannot be executed until a death has taken place. But this is a very specific death, because since Adam, death has happened to every single person who has ever lived with only two exceptions – Elijah and Enoch. Go look those two men up in your Bible if you aren't familiar with who I am talking about. No, we need a very specific death to occur. Verse 15 tells us that this death has occurred that redeems them from the transgressions committed under the first covenant. Our entrance into the New Covenant and into the inheritance that comes with

that covenant is dependent upon a death that occurs with the power to redeem us from our sin, called transgressions here, that are made very clear when we read the Old testament law. We said this a number of times, but when we look at the Old Covenant law, we see rules we cannot follow, ethical ways of living we cannot live up to, and a life that glorifies God that we cannot actually live. But we need that law, because it shows us what God determines to be sin, and shows us that we are indeed sinners. Jesus provided that death in order for us to receive the inheritance.

But the next part of this passage starting at verse 18 goes into a description of what kind of death it had to be. People die in all sorts of ways. I know its not pleasant to think about, so I won't go too far down this road, but you can die from a heart attack or stroke and there is no blood or you can be murdered as Jesus was and a lot of blood would be spilt. I promise this sermon will end on a better note, but let's look at verses 18-22 where we see the **necessity of blood sacrifice to receive an inheritance.** Therefore not even the first covenant was inaugurated without
blood. 19 For when every commandment of the law had been declared by Moses to all
the people, he took the blood of calves and goats, with water and scarlet wool and
hyssop, and sprinkled both the book itself and all the people, 20 saying, "This is the
blood of the covenant that God commanded for you." 21 And in the same way he
sprinkled with the blood both the tent and all the vessels used in worship. 22 Indeed,
under the law almost everything is purified with blood, and without the shedding of
blood there is no forgiveness of sins. The reference here is to the beginning of the Mosaic Covenant, when the books of law had been received by Moses and the tabernacle had been completed. That account is recorded in Exodus 24. There are some differences between the two accounts. Exodus does not mention "water...scarlet wool and hyssop" or sprinkling blood over the "book" only on the people. The writer was probably making assumptions based on other sacrifices. But the point is that at the outset of the Mosaic covenant, it was instituted with a blood sacrifice. The animal had to actually shed blood. It could not be strangled, die a natural death or anything else other than a bloody death at the hand of the priest. The primary connection between Jesus's sacrifice and the sacrifice Moses offered is in the words quoted here from Exodus 24:8,
8 And Moses took the blood and threw it on the people and said, "Behold the blood of
the covenant that the Lord has made with you in accordance with all these words."
These are the words of verse 20 quoted here, This is the blood of the covenant that God commanded for you. But more important to the focus of the gospel and the entire Bible itself is the fact that Jesus uses similar words in instituting the Lord's Supper pointing to his blood that would be shed at his death. Luke 22:20 says, And likewise the cup after they had eaten, saying, "This cup that is poured out for you is the new covenant in my blood. These words of Jesus pointed to his death, his blood, that would be shed and the inheritance of the new covenant that his shed blood would bring about.

What the Old Covenant law showed us clearly that each of us must understand even today is that our sin is serious before a holy God. And while the law in itself could not provide a solution for that sin, it made one thing very clear. We see it in verse 22,
22 Indeed, under the law almost everything is purified with blood, and without the
shedding of blood there is no forgiveness of sins. You, me, we are all sinners, and without the blood of a perfect sacrifice being shed to pay the price for our sins there is no hope of forgiveness. But why did that sacrifice have to be Jesus. Verses 18-22 make clear that there were blood sacrifices offered for sins over and over. Why were they not

enough to cover our sins? Why did it take Jesus to offer the one blood sacrifice of himself to do what none of those other sacrifices could do? That's what verses 23-27 show us. **The necessity of a better sacrificial death to receive an inheritance.** 23 Thus it was necessary for the copies of the heavenly things to be purified with these rites, but the heavenly things themselves with **better sacrifices** than these. 24 For Christ has entered, not into holy places made with hands, which are copies of the true things, but into heaven itself, now to appear in the presence of God on our behalf. 25 Nor was it to offer himself repeatedly, as the high priest enters the holy places every year with blood not his own, 26 for then he would have had to suffer repeatedly since the foundation of the world. But as it is, he has appeared once for all at the end of the ages to put away sin by the sacrifice of himself. 27 And just as it is appointed for man to die once, and after that comes judgment, 28 so Christ, having been offered once to bear the sins of many, will appear a second time, not to deal with sin but to save those who are eagerly waiting for him.

A better sacrifice had to happen because sin is not a physical problem, it is a spiritual problem that must be dealt with in the heavenly places that sin has most deeply affected – our relationship with God. The sacrifices of the Old Testament pictured those holy places with the things of the tabernacle. And even those beautiful items could not be used to worship God without being sprinkled with the blood of a sacrifice. So how can we gain an inheritance in the real heavenly places without a covering of a blood sacrifice. Every picture in the Bible points to the fact that we cannot draw near to God because of sin, and sin must be covered by blood. But the blood of animals sprinkled on physical objects were not really opening the path to Heaven and to God, but only showing the need for the better sacrifice. Jesus as the Christ, the Messiah, the one who was being pictured by those sacrifices became that sacrifice that was very different to the animal sacrifices in three significant ways.

The first difference that makes his offering better is the place. The physical tabernacle was good and represented God's presence. But Jesus as we are told in verse 25, appear[ed] in the presence of God on our behalf. Jesus as the perfect High Priest, who was God himself while being the only perfect human, could enter into the presence of God and present his very own blood shed on a cross directly to God for the sins of His people. There was no need for a tent, no need for gold, no need for an altar, or the right clothing or the separation between the holy place and the most holy place. None of that was necessary because the holy one himself could enter the holy places with proof of an accomplished sacrifice – his own blood. ***But there is a second difference that makes his offering better – the number of offerings***. Starting in verse 26 the author makes the point repeatedly that Jesus only had to make his sacrifice of his blood once for all. That just as each of us is "appointed …to die once," so Christ has been offered only once to bear the sins of many… These verses point out the High Priest had to go in every year on the day of atonement and make a sacrifice for the sins of the people. And there were regular daily sacrifices offered by the priests as well. But Jesus as the perfect, eternal High Priest could offer a lasting sacrifice, because not only was the High Priest perfect, the sacrifice was perfect. It was not animal blood that was picturing the just punishment that humanity deserved for sin. In Jesus's case it was actual human blood, completely perfect human blood that had been spilled out while actually suffering the just wrath of God for sin. It wasn't a picture of what humanity deserved, it was actually what humanity deserved – all of God's wrath and anger against sin poured out on God the Son, Jesus Christ. Galatians 3:13 tells us, 13 Christ redeemed us from the

curse of the law by becoming a curse for us—for it is written, "Cursed is everyone who is hanged on a tree"— He took our curse of sin even though he had none, and therefore his blood did what no animal's blood could ever do.

And that leads to the third difference between his sacrifice and the animal's – the end result. His ended with life, not death. Look at what verse 28 says, Christ, having been offered once to bear the sins of many, will appear a second time... A dead animal was just dead, gone, burned up on the altar. A dead person does not reappear under normal conditions. But Jesus Christ we are told, will appear a second time! Why...How? Because he rose from the dead. The sacrifice of an animal did not actually make anything complete for salvation. But Jesus's death completed God's work of salvation. There was no need for Jesus to remain dead, the work was done, the sin had been paid for, and now death itself the product of human sin could be conquered because of Christ's sacrifice. So, he rose from the dead, and ascended back into those heavenly places he gave us access to. Now does his death mean that we as followers of Christ whose sins are covered by his blood never face death ourselves? Obviously not. Our lived experience is that every one of us will most certainly die unless Jesus returns before that. Jesus himself experienced death, but his death makes it possible that our physical death will ultimately end in a similar resurrection to his own. Verse 27 says, after we die... comes judgment. Jesus didn't face judgment. There was no sin to judge. Instead, he made it possible for the outcome of our judgment to be that we are found righteous in him if we are one of the many whose sins he has born, as verse 28 talks about. Because it was not the sins of all, it is only the sins of the called going back to verse 15. But for all who turn to Christ in repentance for their sin and call upon him for salvation, Romans 10:13 says, everyone who calls on the name of the Lord will be saved. And for those who are saved, whose sins have been paid for by the blood of Christ, Jesus will one day return. This time not to die, but to fully glorify all who have waited for him during their lives or are currently waiting for him when he returns. And at that point, there will be a resurrection for all who have died in Christ so that with him we will live and glorify God for all of eternity! So, while our salvation required a perfect blood sacrifice, it results a beautiful inheritance with none of the pain or sacrifice that led to that blood. But not everyone will not experience that future. Notice that verse 28 says that Christ bears the sins of many not all. The atonement Christ offers for sin through his death is limited to those who have believed in him and repented of their sin. There is a judgement coming. All of us will face death, and the Bible is clear, after that comes judgment... And the question each of us must answer is, "do I believe in Jesus Christ and his sacrifice that he made in my place for my sins?" His better, perfect sacrifice is the only path to forgiveness for sin and access to God himself in the Holy Places. Let's pray.